



魂魄の搭を知っていますか？

戦後79年 沖縄慰霊の日

6月23日、今年も「沖縄慰霊の日」を迎えました。太平洋戦争の末期の沖縄戦で日米双方、兵隊、民間人を含め約20万人にも及ぶ戦死者をしのぶためこの日を「慰霊の日」としました。79年まえの6月23日、旧日本軍の組織的な戦闘が終わった日とされています。組織的な戦闘が終わったと言っても、戦闘そのものが終わったわけではありません。すでに南へ避難を開始した住民と敗退して南下する指示系統を無くした兵士たちと激化する米軍攻撃によって、凄惨極まりないものでした。その最後の激戦地となった糸満市に平和記念公園が作られたのでした。

今でも沖縄県民は「平和の礎」と「魂魄の搭」に祈りを捧げる

沖縄県民は名前を刻まれた「平和の礎」を訪れた後、少し離れた「魂魄の搭」で静かに故人をしのんで祈りを捧げています。

魂魄とは浮かばれない魂

糸満市米須地区は、米軍が終戦後食量を確保するため、住民を集め開墾を進めました。しかし激戦地跡からは遺骨が大量に出てきました。米軍は終戦までもないため反米活動につながると遺骨の収集を許しませんでした。その後地元の人たちの熱心なはたらきかけもあり1946年2月に集められた遺骨と石で納骨塔が作られました。それが「魂魄の搭」です。

ここには全国都道府県の慰霊碑が集まっています。しかし「魂魄の搭」は他の慰霊碑と異なり戦争のために無念に命を奪われた人の魂は「平和が訪れるまで浮かばれない」とされ、残された遺族は平和への思いをこめて祈りを捧げているのです。

そんな沖縄の人の気持ちを踏みにじるように南の島が、今日本の皆にされようとしています。沖縄の米軍施設面積は沖縄全土の7割にも及んでいます。また自衛隊のミサイルの配備も進み、軍事要塞さながらです。有事になれば真っ先に戦場になるでしょう。79年たってもまだ戦争を始めたい人は、たくさんいます。戦争で犠牲になるのは、若者や子供なのです。歴史が証明しています。世界各地で戦争の火種があります。おおきな炎にしないよう考える必要があります。

戦争で犠牲になった人の魂が浮かばれるように、悲劇を忘れてはなりません